



What IS IT?

ISIT: Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

INDEX

今号の主な内容

- ハッカソン・コンテスト“Engineer Driven Day”2024を開催 ...P1
- 「九州DX未来会議：各県のDX推進者が本音で語り合う」を開催..P2
- DX推進の新しい試みに挑戦P2
- BODIKが有償サービスを提供開始P3
- ISITメンバーの知識をシェアする「ISIT勉強会」開催中P3
- 分析NEXT×FiaS分析機器説明会P4
- 第62回分析化学講習会(NMR、SEM/TEM)を開催しました.....P4
- 小中学生向け夏休み体験実験を共同開催P5
- 日本接着学会年次大会にて研究成果の発表を行いましたP5
- サイエンスカフェ@九大新町を開催P6
- 【福岡グリーンイノベーションチャレンジ】令和6年度採択企業決定 P6
- 生成AI時代のビジネスアイデアワークショップ「ブロンプソン」実施 P7
- DXものづくりWGが自立的に活動を継続中P7
- 「ISIT祭り in SRP」開催のお知らせ.....P8
- 新スタッフ紹介P8
- 賛助会員《法人・個人》のご紹介P8

ハッカソン・コンテスト“Engineer Driven Day”2024を開催

令和6年度

福岡市が取り組む「エンジニアフレンドリーシティ福岡」(以下、「EFC」)では「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」を目指して、エンジニアや企業と協力し、スキルアップや活躍できる機会を増やすなどエンジニアを取り巻く環境の充実に取り組んでいます。

EFCは、新たなサービスや製品、時代をリードするようなプロトタイプを生み出すエンジニアの育成・発掘を目的に、「アイデア出しからプロダクト開発まで一連の流れを体験する」ハッカソン・コンテスト「Engineer Driven Day 2024」(以下、「EDD」)を開催しています。

EDDは、エンジニアに興味がある人からエンジニアとして活動している人まで、学生・社会人を問わず、福岡県にゆかりのある個人・チームが参加できます。応募プロダクトの要件は、自ら開発したソフトウェアを含むこと(完成形態はソフトウェアでもハードウェアでもOK)です。

またEDDでは、キックオフ、メンタリング、ハッカソンなどのイベントを開催し、各イベントでは企業の経験豊富な現役エンジニアがメンターとして参加するなど、参加者がエンジニアコミュニティから開発のサポートを受けることができます。

EDDのプロダクト応募は令和6年9月23日に締め切り、その後、アイデア・技術・プロダクト・成長といった視点で審査を行い、優れたプロダクトを開発した個人・チームを表彰します。

EDDのイベントは、国の重要文化財に指定されている福岡市赤煉瓦文化館の館内にあるエンジニアカフェで行われています。福岡市赤煉瓦文化館及びエンジニアカフェは見学無料となっておりますので、ぜひお立ち寄りいただき、歴史的な雰囲気と最新技術の融合を感じてみてください。



福岡市赤煉瓦文化館



ハッカソン・コンテスト

令和6年7月26日（金）に、福岡会場（福岡SRPセンタービル1F SOIL イベントスペース）と大分会場（大分銀行コワーキングスペース「ビジカム」）での現地参加とオンラインのハイブリッド形式で、「九州DX未来会議」が開催されました。

このイベントは、福岡DXコミュニティ、佐賀県産業スマート化センター、大分県地域DX推進コミュニティの共同主催で行われました。

今回は、福岡、佐賀、大分からDX推進者をゲストに迎え、それぞれの取り組みや情熱について語っていただきました。福岡からは株式会社オートシステムの熊本耕作氏、佐賀からはヤマトカンキョウ株式会社の西嶋淳郎氏、旅館あけぼのの音成亜美氏、大分からは株式会社トライテックの岡本綾乃氏、なかつ情報通信開発センター株式会社の塩田伸一氏が登壇しました。

パネルディスカッションでは、佐賀県産業スマート化センターのセンター長の石橋俊介氏がモデレータを務め、パネルテーマをもとに各企業の取り組みの裏側について深掘りしました。当日は、福岡会場に18名、大分会場に10名、オンラインで46名、計74名が参加しました。交流会終了後には、福岡会場で懇親会を実施し、DX推進者同士の交流が深まり、盛況のうちに終了しました。

この「九州DX未来会議」は今回がキックオフとなり、今後も九州内企業のDX推進のきっかけとなるセミナーを継続して開催する予定です。

次回は、令和6年11月15日（金）に「ISIT祭りinSRP」で「九州DX Radio」と題し、地域のDXについてゆる〜く語るランチセッションを開催予定ですので、ぜひご期待ください。



九州DX未来会議の様子



パネルディスカッションの様子

DX推進の新しい試みに挑戦

令和6年度

地域にDXを推進する新しい試みとして、DX認定企業の増加を目指した、DX戦略策定ワークショップとDXの中でもデータ活用に特化した、データ戦略推進イニシアティブを実施しています。

DX戦略策定ワークショップは、ISITと福岡DXコミュニティの共同で、地域企業がDX認定を取得するにあたって最大の課題である「企業のDX戦略の策定」への支援を目的に、令和6年6月から8月に全6回開催いたしました。このワークショップは福岡地区6社の企業経営者と幹部の皆さまが参加され、一般社団法人IT経営コンサルティング九州の経験豊富なITコーディネータの指導の下、各社のビジョンを実現するために、自社の現状を明らかにし、取るべき経営戦略へとつながる一連のプロセスを追って、DX戦略策定へと繋げました。参加各社は策定したDX戦略を更にブラッシュアップして、年内のDX認定取得に挑戦されます。

データ戦略推進イニシアティブは、経済産業省の令和6年度「中小企業知的財産支援事業」の補助事業として、ISITが幹事団体として実施しています。この事業は、九州の地域企業が日々生み出しているビッグデータを、企業の競争力の源泉とするためにデータ利活用による知財化を図るべく、令和6年7月から令和7年2月まで全7回の知財戦略データ活用セミナーを開催し、実際の企業課題の解決に挑戦してもらいます。希望される企業様には伴走支援も実施し仮説検証をしていく予定です。

併せて地域企業相互およびその支援機関とのコミュニティの場を提供し、相互扶助によって継続した知財戦略データ活用ができる環境も整えていきます。



知財戦略データ活用セミナーの様子

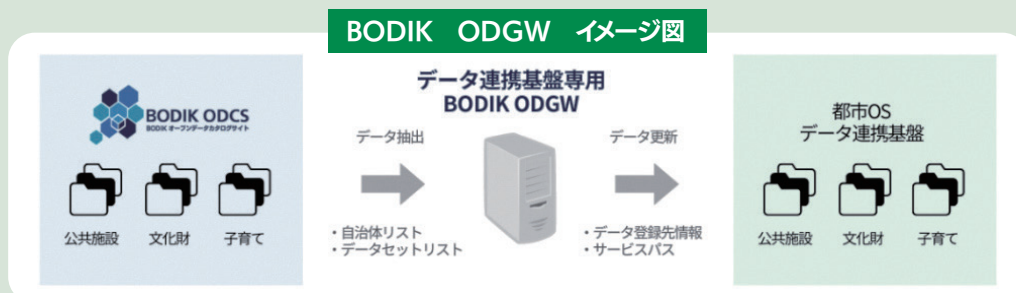
BODIK が有償サービスを提供開始

令和6年度

ISIT が運営するBODIK（ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州）では、オープンデータ・カタログサイトのBODIK ODCSをはじめ、自治体がオープンデータを公開するための支援を行っています。

このたびBODIK ODCSを利用する自治体の皆さまからのご要望もあり、新たに2つの有償サービスプランの提供を開始いたしました。

「BODIK ODCSサポートサービス」のプレミアムプランでは、データ保存容量の大幅な増量や電話によるダイレクトな問い合わせ対応など、各種機能を有料オプションとして提供いたします。また、もうひとつの有償サービスである「BODIK ODGW（OPEN DATA GATEWAY）」は、BODIK ODCSに公開されたオープンデータを、低コストで都市OSのデータ連携基盤に登録・自動更新できるサービスです。



オープンデータ・プラットフォームをさらに発展させ持続可能な形で提供し続けるため、BODIKでは今後も随時新たなサービスを追加する予定です。

ISITメンバーの知識をシェアする「ISIT勉強会」開催中

令和6年度

ISITメンバーが持っている専門知識や経験を外部の方にも共有し、知見を深めビジネスに役立てていただくことを目的として、令和5年度より「ISIT勉強会」を開催しています。

この勉強会では、今話題の生成AIを使ったワークショップをはじめ、オープンデータや脱炭素、スマートシティに関するセミナーやアプリ開発など多種多様なテーマを扱っており、長年産学官と連携して研究開発を行ってきたISITならではの内容となっております。

オープンイノベーション・ラボの野中イノベーション・アーキテクトが講師を務めたChatGPTのセミナーは開催前から大きな関心を集め、当日は福岡市職員の方や教職員の方など総勢100名を超える方々にご参加いただきました。

また、7月に実施した勉強会では産学官共創推進室の川畑室長が講師を務め、「よろず相談分析NEXT」の紹介や、昨年度福岡市産学連携交流センター（FiaS）の分析機器室に導入された最新の大型分析装置である「AFM-IR」について説明を行いました。勉強会終了後には分析専門スタッフによる無料相談会も実施し、普段接することが少ない「分析」について身近に感じていただくことができました。

今後もみなさまのビジネスのヒントとなるような勉強会の開催を予定しています。勉強会とはなたでも無料で参加でき、オンライン開催も行っておりますのでぜひご参加ください。

R5年度実績

- 6月: 「24時間365日稼働するAIカメラによる人流計測のノウハウ」
- 7月: 「Glideアプリを作ってみよう！」
- 8月: 「ChatGPTワークショップ AIとの上手な対話方法を体験！」
- 9月: 「BODIKAPIを使ってアプリを作ろう！」
- 10月: 「所内コミュニケーション促進の道のり Slack導入順未」
- 12月: 「ふくおかAI・DXスクール」特別講座AI最新事例紹介&意見交換会

R6年度実績

- 2月: 「データ活用ははじめの一歩〜オープンデータの取り組み事例から〜」
- 4月: 「分散型自律組織 DAO 入門」
- 6月: 「ChatGPT〜夢を現実に変える一歩〜」
- 7月: 「産業界へのサポート事業「よろず相談分析NEXT」でお悩み解決」
- 8月: 「生活の中の“脱炭素”や“GX”を、素材の視点から語ります」
- 9月: 「都市システムの変革: デジタル社会を踏まえた都市政策とまちの未来」



ISIT 勉強会詳細

令和5年度に福岡市産学連携交流センター（FiaS）の分析機器室に新たに導入された装置のお披露目として、令和6年3月14日によろず相談分析NEXT × FiaS分析機器 説明・見学会 @FiaSを開催しました。

当日は企業や大学から22名の参加があり、ISITからよろず相談分析NEXTの紹介、ブルカー・ジャパン株式会社より新たに導入されたナノスケール赤外分光システム（AFM-IR）についての説明の他、分析機器室において新規導入装置を含めた分析機器の紹介を行いました。AFM-IRはこれまで技術的にできなかったナノスケールでの赤外分光が可能となった装置であり、かつ今回導入した装置では測定領域をフルカバーできる、世界で1台しかない装置でもあり、外部利用も可能であることから注目を集めています。

参加者の中には終了後もAFM-IRについて熱心に質問される方もおり、新規導入装置への関心の高さを伺うことができました。



ISIT 産学官共創推進室川畑明室長による説明



分析機器の説明を受ける参加者



会場での分析機器の紹介の様子

第62回分析化学講習会(NMR、SEM/TEM)を開催しました

令和6年度

例年8月に市内各大学・各キャンパスで開催されていた公益社団法人 日本分析化学会九州支部が主催する分析化学講習会は新型コロナウイルスの流行に伴い2020年度から中止が続いていましたが、昨年度より再開し、今年度も第62回として開催されました。

福岡市産学連携交流センター（FiaS）も会場として提供されており、ISITは人材育成事業の一環で共催として参画し、令和6年8月7日と9日に開催された核磁気共鳴分光法（NMR）及び電子顕微鏡（SEM/TEM）の各講義と実習において、会場の運営や実習指導員の派遣をするなど、講習会が円滑な開催となるよう支援を行いました。午前中は九州大学の先生による装置の原理等についての講義、午後からは実際の装置を使っでの実習を少人数で行い、参加者からは「装置についてしっかりと教えてもらって知ることができて大変有意義」という声がありました。また、講習会をきっかけにFiaSの装置利用に興味を持つ方もおり、今後の活動に繋がる機会となりました。

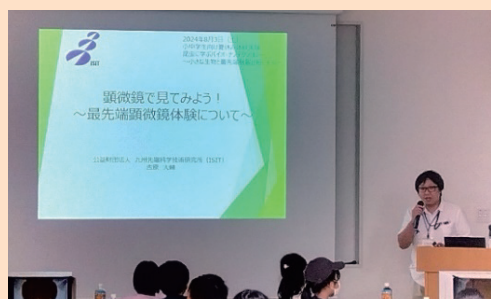


令和6年8月3日（土）、ISITは九州大学未来化学創造センターと福岡市産学連携交流センター（FiaS）指定管理者（西鉄ビルマネジメント株式会社）と共同で、小中学生向け夏休み体験実験「昆虫に学ぶバイオ・ナノテクノロジー～小さな生物と最先端機器が拓く未来～」を開催しました。

当日は、親子63名（うち児童28名）が参加し、まず体験実験につながる座学（レクチャー）として、九州大学大学院 工学研究院の神谷 典穂 教授より「ホテルのお尻が語るバイオテクノロジー」について、農学研究院の日下部 宜宏 教授より「蚕で作る未来のワクチン～食べるワクチンのお話～」について、ご説明いただきました。また、ISITからは産学官共創推進室 吉原 大輔 イノベーション・アーキテクトより「顕微鏡で見てみよう！～最先端顕微鏡体験について～」をご説明しました。

体験実験では、九州大学主導のもと、ホテルのお尻で化学エネルギーを光に変える酵素を応用して、目に見えない微生物などの汚れを評価するATPふき取り検査キットを使った実験を行いました。また、ISIT主導のもと、デジタルマイクロスコプや電子顕微鏡など最先端の顕微鏡を実際に操作してもらいながら、昆虫や身の回りの様々な素材などを観察し、ナノの世界を体験しました。

参加した児童は、拭き取り検査で光るサンプルをきれいに写真に収めようとしたり、顕微鏡を拡大しては昆虫の頭部などの微細な構造に驚きの声を上げたりと大変盛り上がり、盛況のうちに終えることができました。



ISIT 吉原大輔

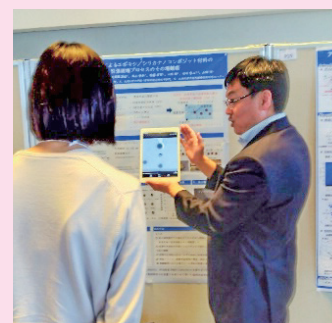


日本接着学会年次大会にて研究成果の発表を行いました

令和6年度

令和6年6月27-28日、富山県の富山国際会議場にて開催された日本接着学会第62回年次大会において、ナノ材料グループの王胖胖研究員が「電子顕微鏡によるエポキシ／シリカナノコンポジット材料の引張破壊プロセスのその場観察」というタイトルで研究成果のポスター発表を行いました。

今回はISITが参画している国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の未来社会創造事業「Society5.0の実現をもたらす革新的接着技術の開発」にて得られた研究成果を発表し、参加者とのディスカッションを行うことで、研究内容のアピールとともに今後の研究の進展に役立つ学びが得られました。



成果発表するISIT 王胖胖研究員

令和6年3月17日（日）、ISITは、地域社会とアカデミアによる共創の場を創出・発展させることを目指す九州大学主導のグループ「K@ITO」のキックオフイベント「いとLab+サイエンスマルシェ」の一企画として、九大伊都 蔦屋書店にて「サイエンスカフェ@九大新町」を開催しました。

第2回目となる今回は、生成AIをテーマに「AIと共に夢を実現へ：生成AIの新たな可能性」という内容で行いました。まず、ISIT未来事業推進室の山本竜広イノベーション・アーキテクト（IA）より、ISITの簡単な紹介の後、画像生成AIや文章生成AIについて、最新のトピックスや雑誌・コミックスなどの創作への応用事例などを紹介しました。

つづいて、ISITオープンイノベーション・ラボの野中 広文IAより、生成AIの基本と動画生成など最新の話題を紹介した後、オンライン環境下で生成AIである「ChatGPT」を用いたデモンストレーションを行いました。会場から質問を受け付け、児童からの「科学誌に論文を掲載したい」との夢に対し、ChatGPTを駆使して数か年計画を立て、いつまでに何を実行する必要があるかなど、実現のための具体的な計画・アドバイスをうまく引き出すノウハウを紹介しながらデモンストレーションすることができました。会場からは、ChatGPTの活用法や倫理面の課題など複数の質問が寄せられ、その関心の高さが伺えました。



ISIT 山本竜広



ISIT 野中広文

【福岡グリーンイノベーションチャレンジ】 令和6年度採択企業決定

令和6年度

ISITは、令和5年度に引き続き福岡市の補助事業である「福岡グリーンイノベーションチャレンジ」に事務局として参加しています。本事業は、脱炭素の分野をビジネスチャンスと捉え、カーボンニュートラルに貢献する製品開発など新たな事業を展開する中小企業等を支援し、グリーンイノベーションの推進を目的としています。以下の通り、令和6年度も様々な分野で脱炭素に向けた開発に取り組む企業4社が採択されました。

ISITは、採択企業の補助事業が円滑に進むよう、進行管理および伴走支援を行ってまいります。

採択企業4社

- (1) ローカルフードサイクリング株式会社
「都市型コンポスト開発事業」
- (2) 株式会社コレタリング
「薄型遮熱シート、太陽光パネル及び蓄電池を適用した、低CO₂排出の木造コンテナハウスの開発」
- (3) 株式会社協栄エレクトロニクス
「IoT対応遠隔監視システム」
- (4) 日本乾溜工業株式会社
「CVT乾燥機を用いた竹チップ乾燥手法と乾燥竹繊維の新たな活用法の検討に関する研究（その2）」



◀令和5年度採択企業の
事業実績はこちら



◀令和6年度採択企業
福岡市のホームページ

生成AI 時代のビジネスアイデアワークショップ 「プロンプソン」実施

令和6年度

ISITは、一般財団法人九州オープンイノベーションセンター（KOIC）が主催し、株式会社 DX パートナーズの全体設計のもと生成AI時代における事業経営「九州ネクストリーダー塾2024」のワークショップ（プロンプソン®※）に講師として参加いたしました。講師はオープンイノベーション・ラボの野中と上田が担当し、全2回のワークショップを実施いたしました。

第一期（2024-06-20実施）では、「ChatGPTとともに創る生成AI時代のビジネスアイデア」と題して、ビジネスパートナーとしての生成AIを持つことを目標として、参加者それぞれの新事業ビジネスアイデア作りを行いました。ワークショップでは、新規事業づくりのアイデアソンをベースにし、アイデアの発散フェーズと収束フェーズにおいて生成AIを活用することで、利活用の体験を深めていきました。通常のアイデアソンに比べ、アイデアの発散が広く、また収束における事業の妥当性の観点においてもビジネスパートナーとしての生成AIの有用性の高さを実感いただきました。

第二期（2024-08-22実施）では、参加者は有料版アカウントを持つ方に限定し「ChatGPTを活用した業務用プロンプトの開発」と題し、更に高度なChatGPTを活用したワークショップを実施しました。講義では、人間がAIに対して与える指示（プロンプト）を設計・最適化する技術である「プロンプトエンジニアリング」について学んでいただき、より良い回答を得るための効果的なプロンプトの作成方法についてご紹介いたしました。

また、ChatGPTの新機能であるGPTs（ノーコードでChatGPTをカスタマイズできる機能）をご紹介し、講師が例として作成したチャットボットを参考に、参加者のみなさまに思い思いのチャットボットを作成いただきました。

第一期・第二期ともに定員を大きく超えるお申し込みがあり、また、参加者からも大変好評いただくなど生成AIを活かすネクストリーダー育成への期待がうかがえるワークショップとなりました。



ワークショップの様子とISIT 野中広文



ISIT 上田健次

※「プロンプソン(promptphon=prompt×marathon)」は「(アイデアソン+ハッカソン) × プロンプト」を意味する造語で、株式会社DXパートナーズの登録商標です。「プロンプト」とは生成系AIの入力のことです。

DXものづくりWGが自立的に活動を継続中

令和6年度

DXものづくりWGは、2020年度福岡市IoTコンソーシアムの事業共創ものづくりWGとして立ち上げ、2022年度以降DXものづくりWGとして活動を自走により継続しているWGです。

現在WGは、ISITが事務局として、2か月に1回程度SOIL イベントホールにて開催され、毎回15名前後のメンバーが参加し、ものづくりに関する活発な意見交換を行っております。

今年度は、5月、7月、10月（予定）に開催しており、ヤンマー建機株式会社様や、株式会社Too様、一般社団法人翔明会様、コモン・クリエーション株式会社様に登壇いただき、ものづくりの紹介やDXに関する取組み、課題等をWGメンバーで積極的に議論します。WG終了後恒例となっている交流会でも賑やかに議論を深めております。



賛助会員入会のご案内

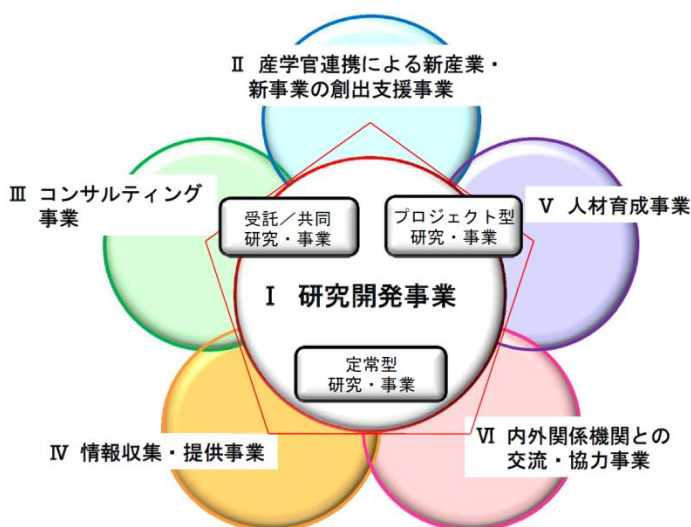
当財団の事業目的に賛同して頂ける方
(企業/団体/個人等)の賛助会員入会を募集中

主な特典

1. ISIT主催のセミナー・交流会を優先的にご案内
2. コンサルティング(技術相談等)の初期相談が無料
3. ホームページで会員紹介(リンク等)
4. その他活動報告書や活動レポートの送付



当財団は、システム情報技術、ナノテクノロジーなどの先端科学技術分野において、九州地域における共創の場を提供し、社会実装や社会実証、産業界のニーズと大学等研究機関等のシーズをつなぐ開発研究を産学官連携の下で推進するなど、産業の振興と経済社会の発展に資する様々な活動・事業(公益目的事業)を行っています。



産学官連携プロジェクト (H30.4現在)

- 福岡市IoTコンソーシアム (FITCO)
- ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK事業)
- SRPオープンイノベーションラボ
- 分析・解析よろず相談事業 (分析NEXT)
- ふくおか産学共創コンソーシアム

など

詳細: <https://www.isit.or.jp/project/>



【入会申込・お問合せ窓口】

当研究所 総務部 Tel : 092-852-3450 Fax : 092-852-3455

E-mail : isit-soumu@isit.or.jp

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号 福岡SRPセンタービル5階

賛助会員入会申込書

公益財団法人九州先端科学技術研究所 宛

貴研究所の事業目的に賛同し、賛助会員として入会を申し込みます。

年 月 日

ふりがな			
団体名 又は氏名	※法人会員の場合は団体名、個人会員の場合は氏名を正式名称でご記入ください。当研究所のWEBに掲載させていただきます。		
代表者氏名	※個人会員の場合は記載不要		印
住 所	〒		
電話番号	※法人会員の場合は代表番号をご記入ください。	FAX番号	
入会理由 ※複数選択可	1. 研究開発内容に関心あり 2. 共同研究/共同提案等の実施等 3. コンサルティング(技術相談等)の活用 4. セミナー・交流会等の活用 5. 情報収集等 6. その他()		
申込口数	※番号に○をつけて、申込み口数をご記入ください。 1. 法人会員 口 2. 個人会員 口 (6万円/口) (1万円/口)		
メールアドレス	※各種セミナーや講習会などのご案内や賛助会員様への連絡等をお送りする宛先になりますので、必ずご記入ください。		
WebページURL	※当研究所のWEBでのリンク設定を希望されない場合は、□にチェックを入れてください □当研究所の賛助会員ページに上記URLをリンクすることに同意しません。		
※団体(法人会員)での申込みの際は以下もご記入ください。			
担当部署名			
担当者名		電話番号	
備 考			